

## 永遠のいのちのこと

こんにちは。神学生の星野です。前回から、イエスさまのことを話し始めました。イエスさまが救い主と呼ばれるのは、イエスさまによってわたしたちに永遠のいのちが与えられたからというお話をしました。では、永遠のいのちとはなんでしょう。今回は、そこからお話ししましょう。

永遠のいのちとは、単純に言ってしまうと「神様の永遠」と結びつきたいのちのことです。神様は「いのち」そのもので、「いのち」の源ですから、永遠から永遠まで、限りなく生きられます。みなさんはこの神様と結びつきたいのちをすでに持っているのです。みなさんは洗礼を受けたときに、このいのちをいただいたのです。

永遠のいのちを持っているなら、この世で死んでしまっても怖くないのです。イエスさまは「わたしを信じる人は、永遠に生きる」とおっしゃっているのです。わたしたちはこの世を去っても、天国で、父なる神様やイエスさまやマリアさま、天使たちや、先に天国に行った親しい人たち（そのときはお父さんお母さんも、あなたが将来結婚した愛する旦那さんや奥さんもいるかもしれません）といっしょに、永遠に幸せのうちに生きることができるのです。このような恵みを、洗礼によっていただいているのです。

ですが、この洗礼によって受けた「永遠のいのち」という恵みを、失ってしまうこともありうるのです。これには絶対に気をつけなければなりません。

イエスさまはある青年に「永遠のいのちをいただくためにはどうすればよいのですか」と聞かれたことがあります。そのときイエスさまは、「永遠のいのちが欲しいなら、（神の）掟を守りなさい」と教えられました。神様の掟を守るとは、簡単に言えば「悪いことをしてはいけない。良いことをしなさい」ということです。悪いことばかりしていると、わたしたちの心はどんどん神様から離れていってしまいます。そして、いつしかわたしたちは神様のことがどうでもよくなり、ついには神様を捨ててしまうのです。こうして、わたしたちのほうから、神様との関係を断ち切ってしまうので、神様は永遠のいのちを与えることができなくなってしまうのです。このようになってしまうと、わたしたちは天国に行けなくなってしまいます。もし神様との関係が完全に断絶していたら、死後、地獄というところで、永遠に苦しまなければならないようになってしまうのです。ぜったいこのようにならないようにしなければなりません。

ですからみなさん、悪いことはしてはいけません。教会にも欠かさず行くようにしましょう。そして、神様が喜ばれるような良いことをたくさんしましょう。これは自分のためだけでなく他の人の幸せのためにもなります。それでも、もし悪いことをしてしまったら、神様に、イエスさまに謝りましょう。イエスさまはやさしくゆるしてくださいます。みなさんは「ゆるしのひせき」というものを知っていますか。「ゆるしのひせき」は自分の悪かったこと（罪）を神様に謝ってゆるしをいただくだけでなく、心の大きな安心と神様の愛もたくさん感じるができる、おおきな恵みをいただける「ひせき」です。「少なくとも年に一回は受けるように」というのが、カトリック教会の決まりなのですが、年一回とはいわず、何回でも受けるといいでしょう。たくさんお恵みをいただきますから。

みなさん、「ゆるしのひせき」を受けたいときは、神父様に声をかけるのですよ。